

Level 1+ Patterned Stories は、ORT の登場人物の名前と、基本的な動詞の読みと理解を促進するために製作されました。ご存じのようにORTは、イギリスの子どもの国語(Literacy)の教材です。イギリスの子どもでも、みんながすらすらと読めるようになる訳ではありません。なかなか文字と音が結びつかない、いわゆる slow learners もいます。その子どもたちのために作られた絵本は、EFL (English as a Foreign Language)として英語を学習している日本の子どもたちの学習にぴったりです。なぜなら、1冊に含まれる単語数が少なく繰り返しが多いので、英語に接する時間が非常に少ない日本の子どもたちでも、英語の絵本を読んだという満足感を味わうことができるからです。私はレッスンで多くの絵本を使います。その際、3つの段階を考えます。

- | |
|---|
| 1) Pre-reading
2) Reading together
3) Follow-up |
|---|

- 1) では絵本に含まれる単語、トピック、構文をあらかじめ導入します。そうすることで、英語の絵本を読んでもらう子どもたちの負担を少なくします。もちろん、この段階をレッスンで扱わなくても、子どもがすーっと理解してしまう優れた絵本はたくさんあります。また、コースブックで Family を学習したら、そこで学習した単語が幾つか含まれている絵本を読んであげることによって、子どもは自然に Reading together に入っていくことができます。
- 2) を単に Reading としないで Reading together としているのは、美しい朗読を聞かせるのではなく、子どもたちが参加する楽しい読みを実践するということです。絵本を楽しんでいる子どもは、Repeat after me.と言わなくても、先生(またはお母さん)と一緒に英語を声に出して読みたくなるものです。
- 3) の Follow-up では、絵本を何度も読んで吸収した英語を、別の場面(situation)や文脈(context)で使うアクティビティをします。こうすることで、子どもたちは英語を自分の言葉として使うようになります。

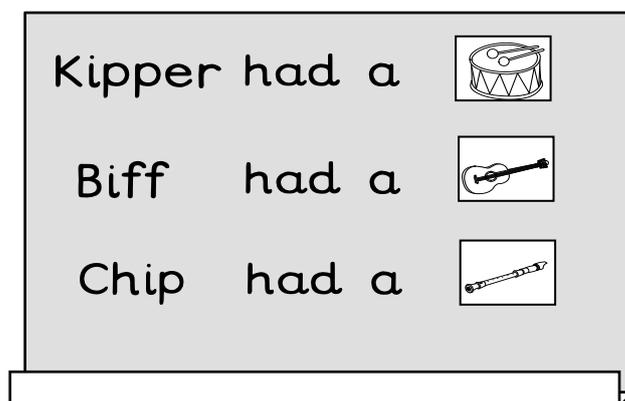
Level 1+ Patterned Stories は、1冊ごとの英語が非常に少なくコントロールされていますから、1)の段階を飛ばして、いつ読んであげてもかまいません。1冊ごとの具体的な活用法を参考に、子どもたちと英語を楽しんでください。

解 説

外山節子

The Headache

- 1) 表紙を見せ、誰がどこにいるのか考えます。Dad が屋根裏部屋(attic)にいます。タイトルを読み、誰がどうして頭が痛くなるのか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。Biff, Chip, Kipper, Dad の確認をしましょう。2 ページに誰が何を持って出てくるか予測します。同様にして 7 ページまで読み、8 ページを想像します。
- 3) この絵本は had を見て読めるように作られています。色々な楽器の絵カードを作りましょう。ボードに Kipper had a と書き、絵カードを入れ替えて様々な文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。



- 4) 子ども 1 人に絵カードを 1 枚配ります。先生は Mum になります。子どもは絵カードを持ち上げて "I have a (楽器)." と言い、その楽器の音真似をします。最後に先生が "I have a headache." と言います。

At the Park

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合い、登場人物の名前を確認します。タイトルを読みます。公園に見える遊具を英語で言って聞かせても良いでしょう。よく見ると公園には NO DOGS の標識があります。この絵本で何が起こるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、誰が何をしているか話し合います。公園に入れない Floppy がどんな気持ちか話し合います。英語を読みます。2 ページでは誰が何をするか想像し、ページをめくります。同様に 7 ページまで読みます。8 ページで Floppy がどうしているか予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は went の練習をするように作られています。色々な遊具の絵カードを作りましょう。ボードに Kipper went on the と書き、絵カードを入れ替えて様々な文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。
- 4) went を使うスピーキングゲームをします。最初の子どもが I went to a bookstore.と言います。2 番目の子どもは I went to a bookstore and a supermarket.と言います。次の子どもは I went to a bookstore, a supermarket, and a (XXXXXX).と言います。絵カードを用意して、絵を見ながらゲームをしても良いでしょう。

Fancy Dress

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合います。タイトルを読みます。子どもたちは仮装パーティを知っているでしょうか？ハロウィーンを学習した子どもならば自分がした仮装のことを話させましょう。Kipper たちが、何に仮装するか想像しましょう。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。子どもたちはカカシを知っているでしょうか？最近のカラスを威す色々な仕掛けがありますが、カカシをあまり見かけません。英語を読んで聞かせ、2 ページで誰が何になるか予測してからページをめくります。同様に最後まで読み進みます。
- 3) この絵本は was を見て読めるように作られています。2 回目に読むときは、英文を指さしてどこを読んでいるか分かるように読み、was を子どもが自分で読むようにし向けます。また、2 ページと 3 ページでは、どの単語が同じでどの単語が違うか聞き、見比べさせます。ボードに Kipper was a と書き、様々な動物の絵カードを留めて、英文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。

- 4) 自分が仮装したことを言うには I was a (XXXXXX).とすることを教えます。3) で使った動物の絵カードから好きなものを選んで I was a cat.のように言わせ、ジェスチャーもさせましょう。

Push!

- 1) 表紙を見せ、Kipper 一家がいつ何をしているのか話し合います。週末、土曜日、日曜日という英語も聞かせることができます。タイトルを読み、この絵本で何が起こるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、何が起きているか話し合います。Fancy Dress で練習した was を指さし、読めるかな、と聞きます。読めたら誉めます。英語を読みます。2 ページで何が起こるか予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み、8 ページを予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は push と pull の 2 つの動詞の意味をしっかりと感じ、見て読めるように作られています。Push を読むときは押す動作を、pull を読むときは引く動作をしましょう。
- 4) 部屋(または教室)の中にあるものを英語で言います。Push the chair/table/TV. など指示を言い、子どもはその動作をします。次に Pull the chair/table/TV. のように動詞を変えます。次に Push と Pull を交互に指示して、子どもに動作をさせましょう。慣れたら、子どもに指示を出す役目をさせると良いでしょう。

Good Old Mum

- 1) 表紙を見せ、これは何の店か話し合います。店の名前やウィンドウの貼り紙なども読んで聞かせます。Fancy Dress を読んでいる子どもたちは、仮装グッズのお店かなあと気づくでしょう。タイトルを読みます。「もう、ママったら！」という意味であることを教えましょう。
- 2) 1 ページを見せ、Mum が何をしているか話し合います。英文を指さし、知っている単語があるか聞きます。1 つでも読めたら誉めます。英語を読みます。put on は 1 つの動詞として読みます。on に stress を置きます。2 ページでは Mum は何をするか想像してから、ページをめくります。同様にして 7 ページまで読み進み、8 ページで Mum が何に変身するか予測してからページをめくります。Kipper は Santa's helper に、Floppy は reindeer になっていますね。
- 3) この絵本は、put on と big を見て読めるように作られています。2 回目以降の読みでは、子どもにママの役をさせ、英語の通りの動作をさせ、big が聞こえたら big を表す動作をさせましょう。
- 4) 子どもの洋服を幾つか用意します。英語では「着る」「はく」「かぶる」など全部

put on であることを教えます。Put on your hat / scarf / gloves / jacket / pants / skirt / socks.などの指示を出し、子どもは言われたものを身につけます。慣れたら反対語の take off を教え、Put on your hat and take off your slippers.のように組み合わせの指示を出して楽しんでください。

The Pet Shop

- 1) 表紙を見せ、みんながどこで何をしているか話し合います。タイトルを読みます。ペットショップにいる動物を英語で言ってみましょう。Kipper 一家はどんなペットを買うか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、この場面について話し合います。英文を指さしながら読んでみせます。2 ページでどんなペットが登場するか予測してからページをめくります。2-3 ページを見せ、誰が何をほしがっているか話しあってから、英語を読みます。この英語は、4-5 ページ、6-7 ページで繰り返されます。rat, spider, snake は絵を見て言うことができますから、子どもが全部の単語を読めなくてもストーリーを声に出して読めるようになります。
- 3) この絵本は wanted の練習をするように作られています。また、everyone, said, a, no などストーリーに頻繁に使われる単語も見慣れるようにします。
- 4) 何回も読むと英語を覚えてしまいますから、読むときに英文を指さしながら読んで、どこを読んでいるか意識させるようにします。Kipper たちがほしがった動物を変えて、新しいお話を作って声に出して読んでみましょう。

Level 1+ Patterned Stories

The Headache 頭痛

パパが屋根裏部屋で、普段使わないスーツケースを片付けていると、古いトランペットがでてきました。パパはそのトランペットを下の部屋へ持ってきました。「もう何年も吹いてないなあ。まだ上手に吹けるかな？」パパは楽譜を探してきて吹いてみました。あまり上手に演奏することはできなかったけれど、プープーッ (“Phaaarp, parp, parp-parp!”) と、大きな大きな音が出ました。音の正体を確かめに子ども達がやってきました。「パパがトランペットをもってたなんて知らなかったよ」とチップは言いました。

チップは、以前おばあちゃんからプレゼントにもらったドラムを持ってきて、パパの演奏の手助けをしようと、一緒に叩きはじめました。でも、それを聞いたパパはビックリ。そして、こう考えました。「もしチップがドラムの音で邪魔して僕の演奏をやめさせようと思っているなら、そうはいかないぞ！」パパはさっきよりもっと大きな音でトランペットを吹き始めたのです。ビフとキッパーも次々に参加しました。ビフは二階からリコーダー(笛)を、キッパーはビフの部屋から壊れたギターを持ってきて、パパ達の演奏に参加しました。ビフが加わった時も、キッパーが加わった時も、パパは、子ども達がパパのトランペットをやめさせるためにそれぞれの楽器で大きな音をだして邪魔していると思ったので、それに負けまいと、もっともっと大きな音でトランペットを吹き鳴らしました。

キッパーのギターがポロロン、ポロロン (“Twang, twang, plunk”)、ビフのリコーダーがピーピー (“Pheep, pheep”)、チップのドラムがボンボンボン (“Bang, boom, bang”)。パパは、立ち上がって、それまでで一番大きな音で、プープーッ (“Phaaarp, parp, parpety-parp”) とトランペットを吹き鳴らしました。

ママはその大きな大きな音を聞いて、何事が起きているのかと部屋へやってきました。でも、みんなは大きな音を出すのに夢中で、ママがドアのところに立っているのに気がつきませんでした。あまりの騒々しさのおかげで、ママが頭痛になってしまったのは言うまでもありません。

- PG 1 Dad had a trumpet. パパはトランペットを持っていた。
PG 2-3 Chip had a drum. チップはたいこを持っていた。
PG 4-5 Biff had a recorder. ビフはレコーダーを持っていた。
PG 6-7 Kipper had a guitar. キッパーはギターを持っていた。
PG 8 Mum had a headache. ママは頭が痛くなった。

At the Park 公園にて

ママとパパが、子ども達をつれて公園の遊び場(a play area)へやって来ました。これまでに一度も来たことがない遊び場なので、子どもたちは大興奮です。遊び場がフェンスで囲ってあるのがビフには気になりましたが、近くまで来てみると、“No Dogs”と書かれた標識があったので、それが犬を入れないためのものだということがわかりました。「どうして犬を中に入れてはいけないのかしら？かわいそうだわ」とビフ。フロッピーは、結局、柵のところにはひもでつないで行くことになりました。「それは気の毒だね。僕たちみんなが楽しくしている時に自分だけつながれるのが、フロッピーは大嫌いなのに」とパパが言いました。

チップはすべり台で遊びました。すべり台はあまり高くなかったけれど、表面がなめらかで、すごいスピードですべることができました。フロッピーは思いました。「ずるいや。みんな楽しい時間を過ごしているのに、ぼくだけつながれたままなんて」

ビフは木馬で遊びました。大きなバネの上に作られていて、いろんな方向にぐらぐら揺れる木馬です。パパはビフをカウガールにみたく、「ヤー、ハッ！」と、まるでカウボーイのような声で言いました。「暴れ馬の背にまたがるはビフであります！」

フロッピーはみじめな気持ちで思いました。「やれやれ、みんな僕のこたなんて忘れちゃったみたいだ」

キッパーはブランコで遊びました。いろんな乗り方を試したり飛び降りたり、あれこれいたずらしています。パパは、キッパーに怪我に気をつけるよう注意した後で、ブランコを後ろから押してあげました。

ママはシーソーをしました。ママが片側に乗り、もう一方の側にはビフとチップが乗りました。ママはビフたちを勢いよく空へむかって持ち上げたり落下させたりしました。フロッピーは思いました。「みんな楽しそうだな。でも、ぼくのことはどうなってるの？」

かわいそうなフロッピー。フロッピーは待ちくたびれてうんざりしていました。そこで、退屈した犬がみんなそうするように、欠伸をし、伸びをすると、あっという間に眠り込んでしまいました。その様子を見て、キッパーが言いました。「あのぐったりした犬をみてよ。やっぱり『フロッピー(*)』っていう名前にして正解だったね」

「起こしたらかわいそうだな」とパパ。チップが言いました。「僕、フロッピーは夢を見てるんだと思うな。あの顔を見て。鼻がびくびくしてるよ。見てみて、尻尾も動いてる。どんな夢をみているのかな？」(*floppy…「べったりした、もっさり広がった」の意)

At the Park

PG 1 Everyone went to the park.

PG 2-3 Chip went on the slide.

公園にて

みんなは公園に行った。

チップは滑り台をすべった。

PG 4-5	Biff went on the horse.	ビフは木馬に乗った。
PG 6-7	Kipper went on the swing. Mum went on the see-saw.	キッパーはブランコに乗った。 ママはシーソーに乗った。
PG 8	Floppy went to sleep.	フロッピーは眠った。

Fancy Dress 仮装

キッパー一家は仮装パーティーへでかけるので興奮していました。どんな衣装を着るか、みんな一週間も悩んで決めたのです。ママは案山子(かかし)になりました。パパの古いシャツとほころびのあるズボン、つぎあてのあるジャケット、それに大きなブーツをはきました。案山子らしく見えるように、パパとキッパーはママの服のそでとズボンの裾に藁をつめてあげました。ビフは、オレンジ色の厚紙を使って、かかしの定番であるニンジンの鼻を作ってあげました。チップは古いトップハットをかぶせてあげました。でも、案山子のような一直線に伸びた腕にするのは大変です。そんなに長い時間腕を伸ばしているのは無理だとママが言ったので、パパが解決策を考えることにしました。みんなでママの仮装の手伝いをした後、ビフは海賊になりました。頭骸骨と骨の絵が描かれた海賊帽子、しましまのTシャツ、水玉のスカーフを身につけ、ゴム長靴を履きました。厚紙で刀も手作りしました。チップも海賊になりました。片目用の眼帯をして、頭に水玉のハンカチを巻きつけました。恐ろしい海賊に見せたかったので、片方の手には手の代わりにフックをつけました。キッパーは天使になりました。サンダルと小さなナイトシャツ、それにママが作ってくれた銀色の翼を身につけました。金紙で覆った光の輪もあります。「こんなふうには衣装を着込むと、まるで本当の天使みたいね。普段も天使みたいにしていてくれればよいのだけれど」とママが言ったのでビフとチップは笑いました。ママの腕をまっすぐに伸ばすために、パパはママのジャケットに棒を差し込みました。「あら、いやだ。鼻が痒いのには搔けない。案山子になるのは名案じゃなかったかもしれないわね」とママが言いました。

パパは仕事仲間に借りてきたニワトリの衣装でみんなを大笑いさせました。「こんな着ぐるみを着てると、なんだかバカみたいだな」とパパ。ママがニワトリの鳴き声みたいな声でクッククク(“Cluck, cluck-cluck, cluck!”)と笑い出したので、みんなも一層大きな声で笑いました。みんなは仮装パーティーを思いっきり楽しみました。パパはニワトリの衣装がみんなにウケたので元気がでてきたようです。みんな幸せな気持ちでいっぱいでしたが、ママだけは少し違ったみたいです。両腕が棒で固定されていたおかげで、パーティーのごちそうが食べられなかったのです。「心配しないで。みんなでかわりばんこに、ソーセージロールをママの口に運んであげるからね」とパパが言いました。

Fancy Dress

PG 1 Mum was a scarecrow.

PG 2-3 Biff was a pirate.

Chip was a pirate.

PG 4-5 Kipper was an angel.

PG 6-7 Dad was a chicken.

PG 8 Everyone was happy.

仮装

ママは案山子(かかし)になった。

ビフは海賊になった。

チップは海賊になった。

キッパーは天使になった。

パパはニワトリになった。

みんな楽しかった。

Push! 押して!

一家は、ピクニックをするための場所を探して、もう何マイルも田舎道を走りつづけていました。でも、どこにもよいところが見つかりません。子ども達から文句が出始めた頃、広大な農場が現れました。入り口の門が開いたままになっていたので、ママはそのまま車を農場の中へと走らせました。ところが、どうしたことでしょう！車はどんどん速度を落とし、やがて動かなくなってしまいました。柔らかくぬかるんだ地面にはまりこんでいたのです。車をバックさせようとパパが提案したのでママはその通りにしようとしたのですが、車輪は空回りして車はますます深く沈み込んでしまいました。ママとパパは口げんかを始めてしまいました。結局、運転手をパパに交代し、ママが後ろから車を押すことにしましたが、やっぱりうまくいきません。パパたちの言い合いがまた少しひどくなったところで、「私たちも手伝おうか？」とビフが提案しました。そこで、ママが窓のへりをもって車を前へ引っぱり、ビフとチップが後ろから車を押すことにしました。でも、車はますます深く沈んでしまいました。

その時です。トラクターに乗った農家のおじさんがやってきました。「動けなくなっちゃったのかい？」「そうです」とパパ。農家のおじさんは言いました。「あんたがた、どうやら町から来たみたいだね。ここの地面は、車で横断するには地面のぬかるみがひどすぎるってわからなかったのかい」

「ママのせいよ」とビフ。「パパのせいさ」とチップ。「僕のせいじゃないよ」とキッパー。農家のおじさんはにっこり笑い、車をトラクターにつなぎました。そして、トラクターが車をひっぱり、みんなは後ろから押しました。おやおや！ビフもチップもキッパーもママも、本当は車を押したりせずにただ車に乗っていればよかったです。トラクターなら、車をぬかるみから引っ張りだすくらいお手のものだったのですから。でも、もう手遅れ。トラクターが勢いよく前進して車を引っ張ったとき・・・ほらね、どうなってしまったか分かったでしょう？

Push!	押して！
PG 1 The car was stuck.	車がぬかるみにはまってしまった。
PG 2-3 Mum pushed it.	ママが押した。
PG 4-5 Biff and Chip pushed it.	ビフとチップが押した。
Mum pulled it.	ママが引っ張った。
PG 6-7 The tractor pulled it.	トラクターが引っ張った。
PG 8 Oh no!	あーあ！

Good Old Mum 愉快的ママ

ママが“The Party Shop”という名前のお店へ入って行きます。マジックやジョークにつかう道具や仮装用の衣装、パーティー用の風船などを売っているお店です。

ママにはみんなをびっくりさせる計画がありました。ママはパーティーショップで買ってきた秘密の品物を寝室へ持って行って、注意深く包みを開けました。それからママは、鏡の前に腰掛け、まず、大きな赤い鼻をつけました。「この鼻で本当によかったのかしら。でも、まあなんとかなるでしょ」と鏡を見ながら思いました。ママは、次に、大きなまくらをベルトでお腹のあたりに固定しました。「みんなをびっくりさせるには体を大きくみせなきゃ」キッパーもフロッピーも、ママが何をしようとしているのか知りません。「あなたにもあとちょっとしたら手伝ってもらわよ。それに、あなたへのびっくりプレゼントだって用意してあるの、キッパー」とママ。

ママは大きな長靴を履きました。フロッピーはママが自分を散歩に連れて行ってくれと勘違いしてそわそわし始めました。「長靴を履いたってということは、ぬかるんだところへ散歩に行くんだろうな」と思ったのです。でも、それは間違いでした。その次に、ママは大きな眉毛をつけました。「ママ、その格好、本当におかしいよ。でも、ママが何に変装しようとしているのか大体わかつちゃった」とキッパーが言いました。「あなたのためのびっくりプレゼントを見るまで、ちょっと待っててね」とママ。そして、ママは大きなひげをつけました。「ぼく、今度こそ本当にわかったよ。その大きな白いひげと眉毛ときたら、あれしかないもの」

「ホー！ホー！ホー！（Ho! Ho! Ho!）」とママは言いました。

そう。それが、ママのびっくり計画だったのです。ママはサンタクロース(Father Christmas)に変装したのです。ママは子ども達へのプレゼントが入った大きなふくろをたずさえました。キッパーも、ママがこっそり用意していた特別な衣装で、エルフ(小さな妖精)に変身しました。キッパーは大喜びです。ママはフロッピーにもトナカイの角をつけました。フロッピーはあまり嬉しくなかったようです。「これまでの人生で、こんなにばかばかしいことってなかったよ」とフロッピーは思いました。

Good Old Mum

PG 1 Mum put on a big red nose.
PG 2-3 Mum put on a big pillow.
PG 4-5 Mum put on big boots.
PG 6-7 Mum put on big eyebrows.
She put on a big beard.
PG 8 'Ho! Ho! Ho!' said Mum.

愉快的ママ

ママは赤い鼻をつけた。
ママは大きなまくらをつけた。
ママは大きなブーツをはいた。
ママは大きなまゆげをつけた。
大きなひげをつけた。
「ホー！ホー！ホー！」と
ママは言った。

The Pet Shop ペットショップ

ママやパパは時々、フロッピーの食べ物を買いにペットショップへ行きます。そこではペットも売られています。そこで、ビフとチップが思いつきました。「ペットを飼わない？」「うちにはフロッピーがいるでしょ」とママ。チップは言いました。「でもフロッピーは家族なもの。ぼくらがほしいのは、ぼくらが面倒をみてあげることのできる、もっと小さいペットだよ」

そこで、その日の午後、一家はペットショップへとやって来ました。でも、みんな、どんなペットにすればよいのか、なかなか決めることができません。そこでペットショップのオーナーのミセス・ジョーンズが様々な種類のペットを見せてくれました。チップは白い、人懐こそうなネズミが欲しくなりました。「このピンクのながーいしっぽ、みて。ロデリックって呼ぼうよ」とチップ。でも、みんなネズミはいやでした。「えっ、それはだめ！」ビフはクモが欲しくなりました。普通のクモではなく、黒とオレンジ色をしたクモで、手足に毛が生えています。「散らかさないから飼うのが簡単よ。スージーってよびましょう」でも、みんなクモはいやでした。「えっ、それはだめ！」キッパーはヘビが欲しくなりました。「緑色のガーターヘビですよ」とミセス・ジョーンズ。「全然怖くないですよ。むしろ人懐こいんです」「ヘビはいいよ」とキッパー。「散歩に連れて行ってやる必要もないし、面倒が簡単。サイモンって呼ぼうよ」でも、みんなヘビはいやでした。「ええっ。ヘビなんていやだよ」みんなが言いました。

ついにパパが、みんなが気に入るペットを探しました。金魚です。「世話も簡単だし、外出するときに誰かにみてもらえるし、気立てもよさそうだ」そして、最後には、みんなが金魚を欲しくなりました。「これはいいわ」とママは言いました。金魚の名前はどうなったでしょう？ジョーズでもゴールドイーでもありません。みんなはその金魚をギルバートと呼びました。

The Pet Shop

PG 1 Everyone wanted a pet.
PG 2-3 Chip wanted a rat.
'Oh no!' said everyone.
PG 4-5 Biff wanted a spider.
'Oh no!' said everyone.
PG 6-7 Kipper wanted a snake.
'Oh no!' said everyone.
PG 8 Everyone wanted a goldfish.

ペットショップ

みんなペットが欲しかった。
チップはネズミが欲しかった。
「いやだ！」とみんなは言った。
ビフはクモが欲しかった。
「いやだ！」とみんなは言った。
キッパーはヘビが欲しかった。
「いやだ！」とみんなは言った。
みんな金魚が欲しかった。